



# BORDER

For Adult Only

mechi

相棒のデニスについてER（救急外来）に着いた時、そこは先に運ばれていた負傷者達の対応に追われていた。発端は夕方。

港湾エリアの違法クラブの摘発に踏み込むと、マフィアの下つ端が激昂して発砲、撃ち合いとなり、制圧までに火災が発生。目的のオーナーと配下3名は逮捕できたが、結果的にマフィアの者が3人、巻き添えの一般人（マフィアの女達）に2人の死者が出て、負傷者は組織の人間と俺達警察も含めて10名。

デニスは肩と腿を撃たれ、俺は腕を弾が掠った程度で済んだが、死者が出たのは頭が痛い。報告書が憂鬱だ。ストレッチャーのデニスを看護師達に預けた後で自分の受付を済ませると、混み具合と慌ただしい院内を見れば、あと1時間は待たされそうに見えた。酷い外傷や火災の負傷に比べたら俺は軽症で仕方がないが、そうは思っても傷は痛む。

そして、隅の自販機でコーヒーを買っていると、「あの」

と男に声をかけられた。

振り返ると、青いスクラブ（ユニフォーム）に白衣姿の男は医師らしいが、このERにはたびたび世話になつていてもこれまで見たことがなかった。

新顔らしき彼の胸のネームタグには『ドクター・バーンズ』とある。

そんなことより、長身で銀髪、金色の瞳の彼は疑いようのない人狼で、俺は少なからず意表を突かれていた。人狼も人狼の医療従事者も珍しくはないが、これまでこの病院では見たことがなかった。

驚きを隠しそびれた俺に、彼は軽く微笑んだ。

「こんばんは、医師のバーンズといいます。結構出血してるようですがどうされましたか？」

左の二の腕の怪我は救急車の中で応急処置をしてもらっていたが、見ると血が滲んでいた。

「ああ、ご心配ありがとうございます。僕はポートランド署のクラーク警部です。先ほどの摘発で起きた銃撃で僕も弾が掠って…負傷者をみんなお願いしてます